

経済・金融 フラッシュ

【7月米個人所得・消費支出】

個人所得(前月比)は+0.1%の低い伸びとなったものの、消費支出は+0.6%と堅調な消費を確認

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 7月の個人所得は市場予想を下回る一方、消費支出は予想を上回る結果

8月30日、米商務省の経済分析局(BEA)は7月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.1%(前月改定値:+0.5%)となり、+0.4%から上方修正された前月値、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.3%を下回った(図表1)。個人消費支出は前月比+0.6%(前月:+0.3%)と、こちらは前月、市場予想(+0.5%)を上回った。また、価格変動の影響を除いた実質個人消費支出(前月比)も+0.4%(前月:+0.2%)と、前月、市場予想(+0.3%)を上回った(図表5)。貯蓄率¹は7.7%(前月改定値:8.0%)と、8.1%から下方修正された前月値から▲0.3%ポイント低下した。

価格指数は、総合指数が前月比+0.2%(前月:+0.1%)と前月値を上回った一方、市場予想(+0.2%)に一致した。また、変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は前月比+0.2%(前月:+0.2%)と、こちらは前月、市場予想(+0.2%)に一致した(図表6)。前年同月比では、総合指数が+1.4%(前月改定値:+1.3%)と+1.4%から下方修正された前月を上回った一方、市場予想(+1.4%)には一致した。コア指数は+1.6%(前月:+1.6%)と、こちらは前月、市場予想(+1.6%)に一致した(図表7)。

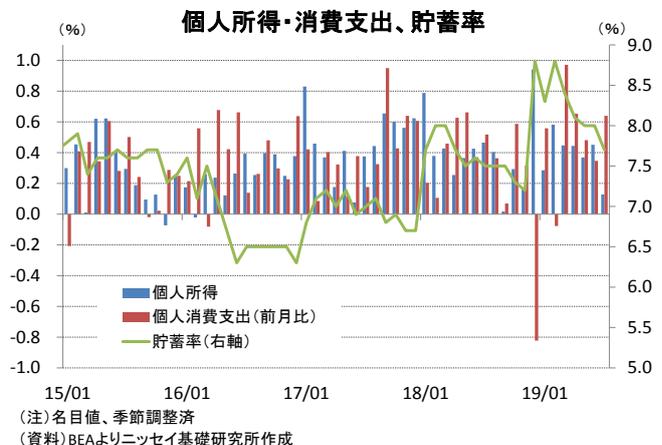
2. 結果の評価: 消費は堅調な伸びを維持し、7-9月期も好調にスタート

名目個人消費(前月比)(図表1)は7月が+0.6%の高い伸びとなった。4-6月期の名目個人消費は前期比年率で+7.1%、実質ベースでも+4.7%の高い伸びとなっていたが、7-9月期も好調なスタートを切ったと言えよう。

一方、7月は貯蓄率が前月から▲0.3%ポイント低下するなど、所得対比で消費がやや過大となった。

もっとも、貯蓄率は前月から低下したものの、依然として高い水準を維持しているため、消費

(図表1)



¹ 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

余力を残していると言えよう。また、労働市場の回復持続や底堅い消費マインドなど個人消費を取り巻く環境も良好であるため、個人消費は当面堅調な伸びを維持しよう。

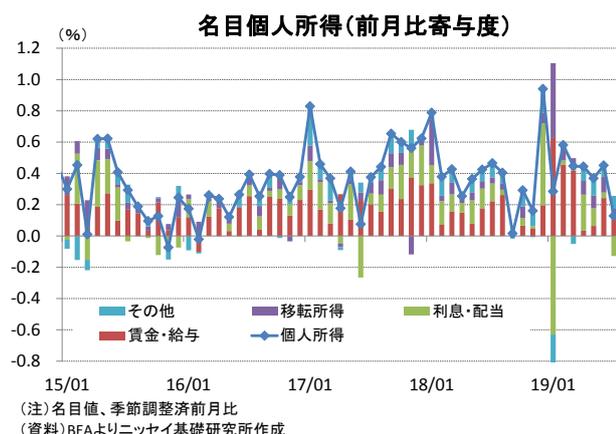
物価は（前年同月比）は、総合指数が18年11月以来、FRBが物価目標としている2%の水準を下回っているほか、物価の基調を示すコア指数も19年1月以来、2%の水準を下回る状況が持続しており、物価上昇圧力は抑制された状況が持続している。

3. 所得動向:名目所得は18年9月以来の低調な伸び

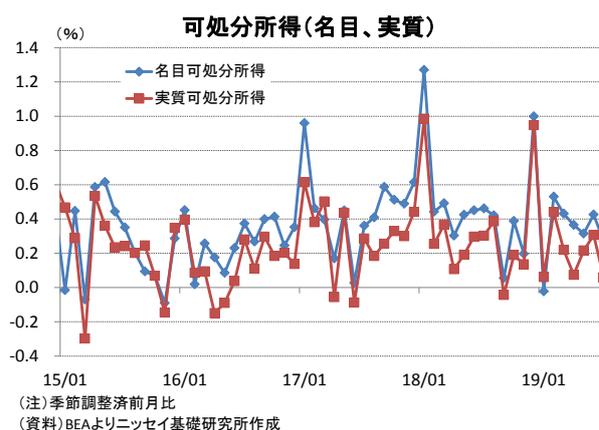
7月の個人所得（前月比）は18年9月（同横這い）以来の低調な伸びとなった。個人所得の内訳をみると、自営業者所得は前月比+0.5%（前月：+0.3%）と前月から伸びが加速したものの、賃金・給与が+0.2%（前月：+0.5%）と前月から鈍化したほか、利息配当収入が▲0.8%（前月：+0.2%）と大幅なマイナスに転じ、所得の伸びを鈍化させた（図表2）。

一方、個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）も、7月は+0.3%（前月：+0.4%）と前月から伸びが鈍化した（図表3）。さらに、価格変動の影響を除いた実質ベースでも+0.1%（前月：+0.3%）とこちらも前月から伸びが鈍化する結果となった。

（図表2）



（図表3）



4. 消費動向:財・サービス消費ともに伸びが加速

7月の名目個人消費（前月比）は、財消費が+0.9%（前月：+0.3%）となったほか、サービス消費も+0.5%（前月：+0.3%）といずれも前月から伸びが加速した（図表4）。

財消費では、耐久財が+0.6%（前月：+0.4%）、非耐久財も+1.1%（前月：+0.3%）といずれも前月から伸びが加速した。

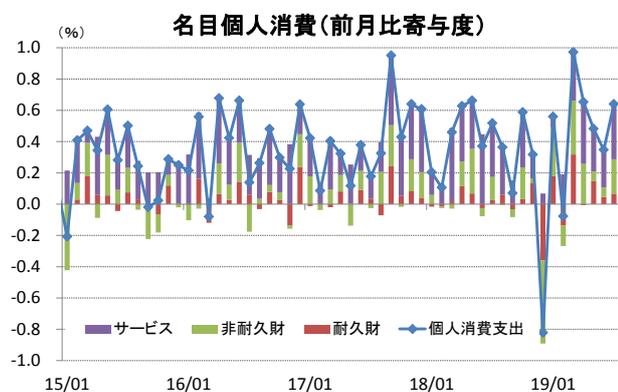
耐久財では、自動車・自動車部品が▲0.2%（前月+0.5%）と前月からマイナスに転じたものの、家具・家電が+1.1%（前月：+0.3%）、娯楽財・スポーツカーも+1.2%（前月：+0.5%）と伸びが加速し、全体を押し上げた。

また、非耐久財では食料・飲料が+0.6%（前月：+0.8%）と前月から鈍化も、高い伸びを維持したほか、衣料・靴が+1.3%（前月：+0.3%）と前月から伸びが加速した。さらに、ガソリン・エネ

ルギーが+3.0%（前月：▲2.9%）と前月から大幅なプラスに転じ全体を押し上げた。

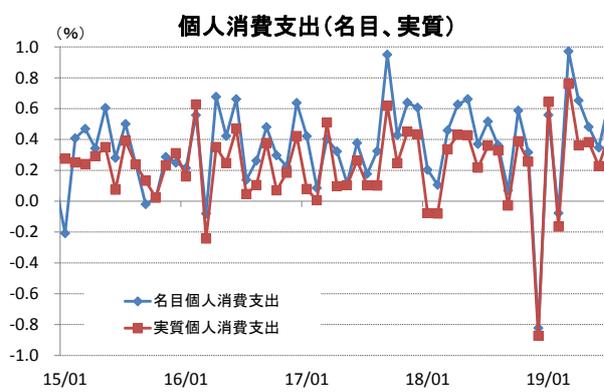
サービス消費は、金融サービスが+0.1%（前月：+0.5%）、娯楽サービスも+0.4%（前月：+0.7%）と前月から伸びが鈍化した一方、外食・宿泊が+0.8%（前月：+0.7%）と前月並みの高い伸びを維持したほか、住宅・公共料金が+0.8%（前月：▲0.1%）と前月からプラスに転じ全体を押し上げた。

(図表 4)



(注) 名目値、季節調整済前月比
(資料) BEAよりニッセイ基礎研究所作成

(図表 5)



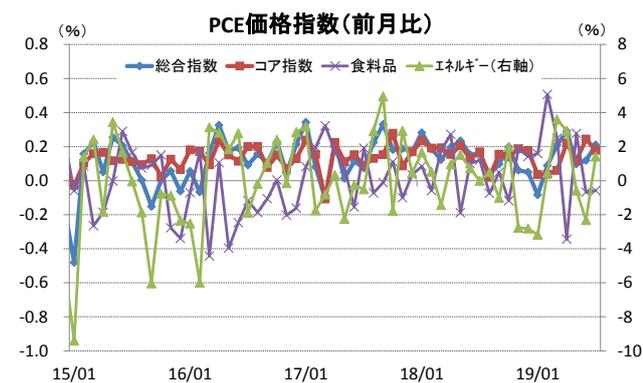
(注) 季節調整済前月比
(資料) BEAよりニッセイ基礎研究所作成

5. 価格指数: エネルギー価格は前月比ではプラスも、前年同月比では3ヵ月連続のマイナス

価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が+1.4%（前月：▲2.3%）と3ヵ月ぶりにプラスに転じ物価を押し上げた（図表6）。一方、食料品価格指数は▲0.1%（前月：▲0.1%）とこちらは2ヵ月連続で物価を押し下げた。

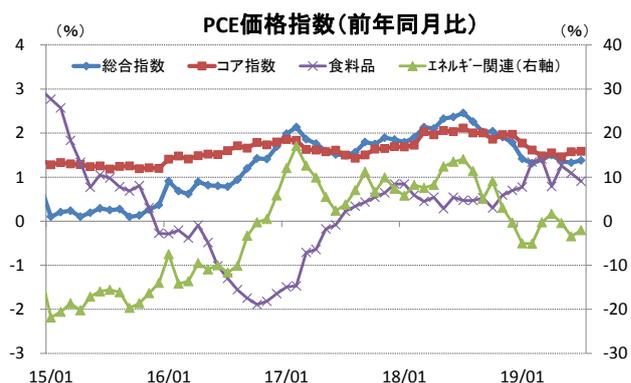
前年同月比では、エネルギー価格指数が▲2.1%（前月：▲3.4%）と3ヵ月連続のマイナスとなった（図表7）。一方、食料品価格指数は+0.9%（前月：+1.1%）とこちらは17年7月以来25ヵ月連続のプラスとなった。

(図表 6)



(注) 季節調整済
(資料) BEAよりニッセイ基礎研究所作成

(図表 7)



(注) 季節調整済
(資料) BEAよりニッセイ基礎研究所作成

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。